

製品名: Frizzled-8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11149**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	FZD8
別名	FZD8; Frizzled-8; Fz-8; hFz8
遺伝子 ID	8325.0
SwissProt ID	Q9H461
免疫原	抗血清はヒト FZD8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 486-535

背景

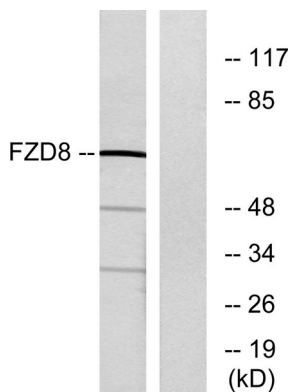
frizzled クラス受容体 8(FZD8) ホモ・サピエンス このイントロンを持たない遺伝子は、frizzled 遺伝子ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、Wingless 型 MMTV 統合部位シグナル伝達タンパク質ファミリーの受容体である 7つの膜貫通ドメイン

タンパク質をコードしています。ほとんどの frizzled 受容体は、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しています。この遺伝子は2つのヒト癌細胞株で高発現しており、複数の種類の癌において役割を果たしている可能性を示唆しています。マウスの類似タンパク質の細胞外システインリッチドメインの結晶構造が決定されています。 [RefSeq 提供、2008年7月], domain:Lys-Thr-X-X-X-Trp モチーフは、Wnt/ β -カテニンシグナル伝達経路の活性化に関与しています。 , domain:FZ ドメインは、Wnt リガンドとの結合に関与しています。 , domain:PDZ 結合モチーフは、GOPC との相互作用を媒介します。 , function:Wnt タンパク質の受容体。 frizzled 受容体のほとんどは、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しており、disheveled タンパク質の活性化、GSK-3 キナーゼの阻害、 β -カテニンの核内蓄積、および Wnt 標的遺伝子の活性化につながります。 PKC とカルシウムフラックスが関与する 2 番目のシグナル伝達経路が、一部のファミリーメンバーで確認されていますが、PKC は Wnt を介した GSK-3 キナーゼの不活性化に必要であると思われるため、それが別の経路を表すのか、標準的な経路に統合できるのかはまだ明らかではありません。どちらの経路も G タンパク質との相互作用に関与していると考えられる。組織形態形成過程および / または分化組織において、極性情報の伝達および細胞間伝達に関与している可能性がある。 , 類似性: G タンパク質共役受容体 Fz/Smo ファミリーに属する。 , 類似性: 1 つの FZ (frizzled) ドメインを含む。 , サブユニット: GOPC と相互作用する。 RSPO1 および RSPO3 と相互作用する。 , 組織特異性: 胎児腎臓に最も多く存在し、次いで脳と肺に多い。成体組織では、腎臓、心臓、膵臓、骨格筋に発現する。 ,

研究分野

WNT、WNT-T 細胞、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、基底細胞がん

画像データ



FZD8 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。